

# 今井城学園通信

社会福祉法人 天使園  
児童養護施設  
今井城学園  
青梅市今井 2-1207-8  
発行日 2014年7月  
第7号

## 園長あいさつ

小田川広明

平成26年度も3ヶ月が過ぎ、まもなく夏休みの時期となりました。国では、「児童養護施設等の小規模化及び家庭的養護の推進」を明確に示しています。当法人でも、5月の理事会において家庭的養護推進計画が承認されました。また、この計画は東京都に提出もいたしました。

国の示している将来の児童養護施設の姿として、本体施設はすべて小規模なグループとする。本体施設の定員は45人以下とする。本体施設とグループホームを含めた定員は、60名程度とする。法人型ファミリーホームの2カ所以上の開設。施設における里親支援。等があげられています。

今井城学園では、次のページで紹介していますようにグループホーム「やまぶき」の開設を進めています。グループホーム「やまぶき」の開設により、本体施設の定員は28人（7人×4ユニット）+グループホームが4ホーム（6人×4ホーム）となり、総定員は52人で現在と変更しない形で小規模化を進めています。本体施設では、平成8年に新築移転したときには、1ユニット11人で子どもたちが生活していた居室を、今後は7人で使用することができ、余裕を持った生活ができることを期待しています。

今後の課題として、ファミリーホームの設置が残っていますが、補助金等の形態を確認しながら、慎重に進めていきたいと考えています。今年度も、宜しくお願いします。

## 学園紹介シリーズ

No.7

前号の「今井城学園通信」では、今井城学園の運営方針の全体を紹介しましたが、今号では中身に触れてみたいと思います。内容はどのような職員集団を作れば良いのかが書かれています。子どもを養育・支援・援助をしていくのは現場の職員（人）であり、なおかつ一人では無く、様々な職種の職員がチームとなって取り組んでいく必要があります。現在、今井城学園で生活している子どもたちの8割弱が虐待を受けた経験があります。そのような子どもたちに対するには、まず第一に「子どもたちの最善の利益、権利擁護」を考えなければなりません。職員全体として、常に様々な視点を持って学習し考えていきたいと思えます。昨今の子どもたちの課題は、多様化してきています。また、障がいを持っている子どもたちも多くなってきています。職員については、新卒で就職した者、中途採用の者、大学や短大・専門学校での学部や資格も様々です。（現在、児童養護施設職員専門の資格はありません）様々な経験や考え方の職員がいます。子どものケースをアセスメントし、実際の支援につなげていくには職員の様々な経験や考え方を結びつけ、一つになって支援を行いたいと考えています。今井城学園では、様々な役職や専門職が子どもの支援を行っています。自分の部署だけでなく他の部署や他の専門職と協力し、施設及び組織全体を考え職務を遂行していってもらいたいと考えています。職員一人一人が当事者意識及び今井城学園の看板を背負っているという意識を持ってもらいたいと考えています。紙面が無くなりましたので、次号に続きます。



# まもなく完成予定！ 新 GH「やまぶき」

現在、今井城学園には青梅市に2件、瑞穂町に1件のグループホームがあります。本園とはまた違った雰囲気子ども達と一緒に生活しています。そして新たに瑞穂町にグループホームを建設することになりました。現在建設中ではありますが、夏休み頃には完成予定です。職員も準備のため、家具家電の用意や、調理の猛特訓中です！子ども達は完成を待ちわびている状態ですが、一緒に壁紙を選んだり、野菜を育ててみたいなど、一緒に楽しんで完成を持っている状態です。

グループホームの名前も子ども達に募集をしてたくさんのステキな名前の候補が挙がりました。職員で話し合った結果、「やまぶき」と名前が決まりました。



**やまぶき**の花言葉には「待ちかねる」といった意味もあるようで、言葉通り、早く完成しないかと毎日待ちわびています。場所はグループホーム「いぶき」の隣りになるので、地域の方々やお友達にも知ってもらい、安心できる場所が「いぶき」とともに作れば良いと思います。

また完成した後の様子も皆様にお伝え出来ればと思いますので楽しみに待っていて下さい！

グループホーム長 細井 豪太

## 職員リレーコラム (.) 職員自己紹介 その7

3F女子ホールを担当している中西さち子です。保育士として今井城学園で働かせて頂き、5年が過ぎました。児童養護施設で子どもたちの生活支援を行う中で、日々、自分自身も子どもたちから様々な事を学び、一緒に成長させてもらっています。

児童福祉をになう保育士、児童指導員という職業は子どもたちの人生に関わる重要な存在であり、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

子どもたちの思いに寄り添い、安全、安心して生活できるよう、これからも支援して行きたいと思っています。



青梅市新町にあります『グループホームみずがき』で勤務をさせて頂いております石川宏樹です。新卒で入社し、今年で10年目となります。みずがきも開設10年目。どちらもあちこちガタがきている所がありますが、メンテナンスをしながら、子ども達の成長を見守っています。

児童養護施設だけに限らず、『人』と接する仕事をしていく上で大切なのは、“長く続ける”事だと思っています。学園に遊びに来た卒園生に「よくきたね！おかえり！」と言ってあげ続けられる事の重要さを日々痛感しています。

子ども達の毎日見せる成長を発見し、刺激を受けつつ、一緒に成長していく事を日々の支援の中で大切にしながら働いていこうと考えています。



連載7回目。社会的養護には、大きく分けて「施設養護」と「家庭養護」があります。

「施設養護」には『児童養護施設』『乳児院』『児童自立支援施設』『自立援助ホーム』があります。

「家庭的養護」には『養育家庭』『専門養育家庭』『ファミリーホーム』『親族里親』『養子縁組里親』等があります。今回は、『養育家庭』について話しをしたいと思います。

今までの『養育家庭』は、里親の自己研鑽・努力でやって来たというのが現状です。

『施設養護』の様に同僚が居る訳でもなく、心理士が居る訳でもなく、スーパーバイザーが居る訳でもなく、施設長が居る訳でもなく、FSW が居る訳でもなく、医療関係者の出入りがある訳でもありません。協力者は家族だけです。それなのに、社会的養護という枠組みの中にあります。社会的養護ではあっても養育家庭単体では、他の養育形態と同じ様に組織的な問題解決能力を期待するのは厳しいと言えます。

その中で、養育に欠ける児童を家庭で預かって養育を行っております。実子の居る家庭・実子の居ない家庭とありますが、現在は、障害を抱えた子どもや育てにくさを抱えた子どもも多く依託されております。そういった養育家庭が地域の中で生活を送っております。地域や関係機関の支援なしに、委託された子ども達を育てて行く事は非常に厳しいです。地域や関係機関のチームワークなしの育児を強いられたなら、養育家庭はいつか消滅してしまいます。地域の中に『養育家庭』が存在している事を多くの人に知って頂きたいし、理解をして頂きたいと思います。我々施設職員は、子どもの育ちと里親の育てに必要なネットワークの構築に、積極的に励んでいかなくてはならないと改めて強く思うこの頃です。



## こころの窓

心理士 長嶋 彩

今回は話を“聴く”とこの言葉の意味についてお話ししたいと思います。突然ですが、“聞く”と“聴く”という言葉の使い方の違いをご存じでしょうか。

- ① 聞く (=hear) : 意識しないでただ耳に入ってくる音を受け入れる場合に使われます。
- ② 聴く (=listen) : 積極的に意識して音に耳を傾ける場合に使われます。

心理士の仕事について、「ただ話を聞いているだけなのでは？」と言った声を聞くことがあります。私たちが行っているのは“聞く”作業ではありません。上記で説明した“聴く”作業を行っています。普段お喋りをする際、当初はAという話をしていたのに話し終わってみるとAという話題はどこへやら、結果全く違う話をしていることはありませんか？話をする際、相手の話の内容に感化されて自分も「そういえば私もこんな事があってね・・・」というやり取りをしていると思います。その状況を木で例えると、当初はAという木の幹の話をしていても、話し手と聞き手が交互に入れ替わりながら話がどんどん枝分かれして行きます。それが会話の自然なやり取りです。一方、心理療法においては基本話し手と聴き手の役割が崩れません。心理士は話の幹となる主の話題を意識しながら話を聴いており、話題が枝分かれしたとしても木の幹に話を戻す努力をしているため、脱線し続けることはありません。つまり相手の話に積極的に意識するよう聴き手になることを徹底して行い、話し手が今何を話したくて何を聴き手にわかってもらいたいのかを考えながら耳を傾け続けています。

小さな違いのようにも感じられるかもしれませんが、心理士に限らずあなたの周りには“聴き”上手な方は上記の内容を自然と実践している方かもしれません。

# レッツ・クッキング

栄養士 原口康子

大豆製品をどのように摂っていますか？納豆、冷や奴、いなり寿司、豆腐と油揚げのみそ汁……。煮豆や生揚げ（厚揚げ）を体に良いから食べよう！と思って食べる方は少ないのではないのでしょうか。今回は、当園で好まれている「生揚げの甘辛煮」をご紹介しますと思います。とてもシンプルですが、朝のメニューに欠かせない一品。生揚げは‘ただ豆腐を揚げただけ’‘油を使っているからカロリーが高い’と思われがちですが、生揚げには、揚げているからこそその効果があるようです。カルシウムやビタミンKの含有量は多く、骨粗鬆症予防に。ベータコングリシンは肥満防止に効果があると言われています。脇役になりがちな生揚げを‘ご飯のおかず’に是非お試しください。

## 【作り方】 3人分

材 料	分 量	作 り 方
生揚げ	大 1 枚	①生揚げ 10 等分にカット。
水	160 CC	②調味料を煮立たせた中に①を入れ、
砂 糖	大 1・2/3 杯	落としぶたをする。（中火で 5～8 分）
醬 油	大 1・小 1/2 杯	途中煮絡ませるように生揚げ
顆粒だし	ひとつまみ	を優しく返す。



※生揚げが重ならないような鍋で煮ると、煮崩れせず味がしみ込みます。

# 人はなぜ教えようとするのか

学習指導員 藤野哲夫

小さな子は「これ、なあに？」「どうして？」と、絶えず問いかけます。主語を「私」に置き換えてみましょう。「私は何か？」「私はなぜ存在するのか？」、これはもう立派な哲学的問いです。子どもが人に問いかけるのは真理の探究に他者が必要であることを既に理解しているからだと思われます。

問いかけられた者は、うまく説明できそうもないときでも、何とか答えようと努めます。このとき、答える者は、自分の思考の流れを中心にするのではなく、問いかけてくる者を中心に据えて考えようとします。この転換は、答えようとする者に自然に起こってきます。答えようとする者には、真理の探究は、問いかける者との共同作業であることが分かっており、相手と共に考えようとする姿勢が内在していると思われます。

子どもは教えられたわけでもなく、問いかけてきます。答える者は、強制されたわけでもなく、答えようとします。真理の探究は、両者に内在する主体的な働きとして行われます。不思議なことです。

50年ほど前、私は高校1年生でした。3月の離任式で、定時制の数学の先生が「教えることは、学ぶこと」と話しました。その意味が、ようやく私に分かってきたように思います。

学び、教えることは、共に不完全な人間であっても、学ぶ者と教える者とが協力して真理を探究することです。これは大いなる恵みです。学習指導員と子どもたちの関係も、このようでありたいと願っています。



**編集後記** おかげさまで「今井城学園通信」第7号を発行することができました。この通信を通じて、今井城学園を地域の皆様幅広く知っていただき、職員の持つ専門知識が皆さまの生活に少しでもお役に立てればと願っています。記事の内容に関して、ご質問、ご要望等がございましたら、下記の連絡先まで遠慮なくご連絡ください。（編集委員）

今井城学園 電話 0428-31-2277 e-メール [info@imaijyo.or.jp](mailto:info@imaijyo.or.jp)  
ホームページ <http://www.imaijyo.or.jp>